

井澤式 比較暗記法

ズバリ



的中



令和7年本試験

学科Ⅱ（環境・設備）

環境・設備1ページ目
だけでもこんなに
ズバリ的中！

〔No. 1〕環境工学における用語に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 音響インテンシティレベル（音の強さのレベル）は、音のもつ単位体積当たりの力学的エネルギー量を、基準の力学的エネルギー量で除し、デシベル表示したものである。
2. プルキンエ現象は、暗所視に移行する過程において、視感度が最大となる波長が短い波長へずれる現象である。
3. 平均放射温度（MRT）は、グローブ温度、空気温度及び気流速度を用いて求める。
4. 空気齢は、流入口から室内に入った所定量の空気が、室内のある地点に到達するまでに経過する平均時間である。

〔No. 2〕室内の温熱環境に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 予測平均温冷感申告（PMV）は、空気温度、放射温度、相対湿度、気流速度、着衣量、代謝量を用いて求める。
2. 予測平均温冷感申告（PMV）の値が0のとき、予測不満足者率（PPD）は、0%になる。
3. 空調におけるドラフトによる不快感には、平均風速だけでなく、空気温度も影響する。
4. 着席安静時における日本人の平均的な体格の成人男性の代謝量は、一人当たり約100Wである。

〔No. 3〕換気に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。

1. 全熱交換器による換気において、外気の絶対湿度が室内の絶対湿度よりも高い場合、室内的吹出し空気の絶対湿度は、外気の絶対湿度より低くなる。
2. 温度差による換気において、外気の温度が室内の温度よりも高い場合、外気は中性帶よりも下側の開口から流入する。
3. 風圧力による換気において、外部風向と開口条件が同じ場合、その換気量は、概ね外部風速に比例する。
4. 容積の異なる2つの室において、それぞれの室内の二酸化炭素発生量及び換気回数が同じ場合、定常状態での室内の二酸化炭素濃度は、一般に、容積が大きい室より小さい室のほうが高くなる。



[井澤本] 環 No.17



[井澤本] 環 No.4



[井澤本] 環 No.10



[井澤本] 環 No.2



[井澤本] 環 No.9



[井澤本] 環 No.8